



# SMF Press

## SMFこの1年 そして明後日へ

本年度も「Saitama Art Platform形成準備事業」\*の一環として、  
入間市博物館アリット、うらわ美術館、川口市立アートギャラリーアトリア、川越市立美術館、埼玉県立近代美術館の  
五つの連携ミュージアムが所在する、入間、浦和、川口、川越、北浦和を中心に埼玉県内各地で、  
地域との結びつきを強化する多彩なアートプログラムを実施しました。  
今年度の概略と印象的な事業を紹介したいと思います。\*\*

### 「アート楽座」—ミュージアムを起 点に+αの多彩なアートプログラム

入間では、真夏の暑さを吹き飛ばす「夜のアリット 光のフェスタ」が行われました。地元ゆかりの若い美術家や音楽家、ダンサーを講師に招き、隣接する東野高等学校の美術部の協力を得ながら、子どもたちとアートなお化け屋敷をつくって楽しむ、ワークショップ&フェスティバルです。夜のミュージアムに予想を超えた子どもたちの創造パワーが炸裂する一夜となったようです。

浦和では、継続してきた多世代交流ワークショップの第4弾。今回はおいから発想される色やかたちをパズルのようにつないで立体的な展開を楽しみました。また夏休み終盤に開かれた「ひとのかたち カラフル人形をつくろう」は、「アートフェスティバルうらわ2012」とリンクし、参加者がまちをパレードしフェスタのステージに登場するなど、商店街や街との交流

を深める契機となりました。

川口では、アトリアの名物展となってきた「川口の匠vol.2」にあわせて、盆栽名人の指導によるミニ盆栽づくりのワークショップや「アート作品から見る盆栽の魅力」と題した鑑賞講座、禅寺の森に分け入り自然を感じながら樹木をフロッタージュする「ドローイング散歩」を行いました。川口の昔を感じさせる銭湯を訪ね歩き昭和文化を振り返る「銭湯のある街歩き」の続編も開催され好評でした。

川越では、手づくりのアートフラッグでストリートを彩る「ミュージアムロード」プロジェクトを昨年が続いて展開し、市立美術館と旧川越織物市場を結ぶ展示を行いました。フラッグの制作・展示を通してさまざまな方々の交流・協力が生まれてきました。また織物市場でのクラフト市は好天にも恵まれ大勢の来場者でにぎわいました。この歴史的建造物の活用への一石となることが期待されます。

北浦和では、埼玉県立近代美術

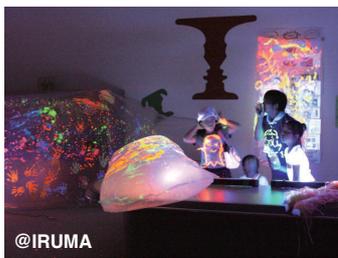


館の開館30周年と連動し、多彩なプログラムが組まれました。2回にわたって開かれた「MOMASの扉スペシャル」では、空間を体で感じたり、自由な発想で音と美術作品をつないだりして、新たな鑑賞を試みました。「コレオグラファーの目・スペシャル！」では、夏に来場者の人気投票で選ばれた作品を中心に、創作ダンスの新作がつけられ、展示室や館内外の各所を回りながら、美術とダンスとの新鮮な出会いを楽しみました。「SMFああと！ファクトリー 共鳴する空間—詩・美術・建築・音楽・ダンス—」は、さまざまなジャンルの人財が集うプラットフォームとしてのSMFの性格をうまく

反映したプログラムとなりました。ピアシンスハウスの会による詩人・立原道造のパステル画や建築模型の展示、グルグルハウスの美術家9名が立原の詩に挑んだ美術作品を展示したコーナー、多彩なSMFのメンバーが「部屋を着る／音を灯す／おどりを編む」と題して、事前の打ち合わせやワークショップを積み上げて、子どもたちと創造した段ボールの都市・音の時空・ダンス。フィナーレの「かいじゅう・街に現れる！」では子どもたちの笑顔が弾けました。

北浦和と西口銀座商店街との連携プログラムでは、昨年の回遊美術館Ⅱで生まれた商店街のマスコットキャラクター「きたうらワン」の商店街デビューと今後の成長・活躍を祈って、「きたうらワンと探そう！街のステキ」、「きたうらワンとアートパレード」の二つのワークショップを開催しました。

こうしたプログラムは、単にミュージアムの地域へのアウトリーチ活動にとどまらず、アートの視点から地域の再発見を促したり、各地域の意欲的な人材や面白スポットを発掘し、つながる場を提供したりと、さまざまな効果が認められます。またプログラムを通じて知り合った同士が、交流を深め新たにコラボレーションをはじめると、ひろがりを見せています。（裏面へ続く）



@IRUMA



@KAWAGUCHI



@KAWAGOE



@KITAURAWA



@URAWA



@KAWAGUCHI



@KITAURAWA



@KITAURAWA

## 「アートバンク」— つながりひろがるアートな仲間たち

SMFでは、さまざまなアート関係者の出会いや交流、人財や場所などの情報の蓄積を促すプログラムを「アートバンク」と題して行っています。「アート散歩」や「アートマップ」作成\*\*\*もその一つ。今年度は、行田、鴻巣で「アート散歩」を実施し、県北地域でアートに関わる活動を行っている方や今後の活性化を試行する方々と出会う機会となりました。

「アート寺子屋」は今年度から新たに始まったプログラム。専門家を招いてじっくりと話を聴いたり、刺激を与えあったりする、カジュアルながら大切な相互学習の場をめざし、「寺小屋」と名付けられました。幕開けは「アートプラットフォーム形成のためのメタデザイン」と題し、現代音楽、建築、アートプロジェクトなど、各分野の一端で活躍する方々を招き「逸脱する芸術表現」、「仮設の知恵」、「創造性と社会性」の3回シリーズで開催され、熱心な受講者も交えて貴重な学びの場となりました。

埼玉県内を中心にユニークで意欲的なアート活動を展開している個人・団体が集い活動紹介や率直な意見交換を行い、新たな協働の契機とする「ラウンドテーブル」も4回目を迎えました。アトリエでの制作にとどまらず、都市空間や自然の中での展開を図り、社会に対してアートの可能性を開示する試みを行っている美術家を中心に6組の活動発表と意見交換を行いました。またラウンドテーブル参加者を含めてこれまでSMFの活動に関わっていただいた方々に、それ

ぞれのアートの初夢を発表していただく「さんすび展」を新春の美術館で開催、提案されたプランを共有・展開し、実現の可能性を探る「アートプロジェクトができるまで」を「アート寺子屋」として実施し、出展者・参加者のさまざまな接点を生み出すことで、協働に向けての課題を探りました。

「アートバンク」事業では、広報・発信や情報蓄積・整備も重要な役割を果たします。今年度もニュース紙「SMF PRESS」を、号外を含めて計6回発行しました。ホームページも一新、いっそうの充実を図りました。2009～11年の活動紹介の動画もインデックスを付けて40本以上、見やすく整理されました。「SMFでつながる」のページもますます充実の予定です。facebookやtwitterのページとのリンクも貼られてSMFへの関心もじわじわと広がってきました。

## 「明後日のSMF」へ— あなたも一緒に活動しませんか？

文化庁のモデル事業、補助事業として5年間継続してきたこの事業も、一つの節目を迎えました。「身近な場所でアートを享受し支援し再創造するプラットフォームをめざします」を旗印に、ミュージアムとまちやひとを結び、地域の文化資源の活用を図ってきました。この事業の企画・運営の中心となってきたのは、アートの風増殖計画「風車プロジェクト」(2008年)から始まったSMFです。美術、建築、音楽、文学、ダンスなど、さまざまな分野の人材が集い、埼玉県立近代美術館や連携ミュージアムをキーステーションに活動してきました。5年間の蓄積を経

て、SMFも新たな出発を図ることになりました。次のような趣意書に基づき来年度からメンバーシップ制の会として発足します。

SMF (Saitama Muse Forum) は、既存のジャンルにとらわれない自由な視点からさまざまなアートプログラムを企画して、アートをめぐって多くの人がつながっていくためのプラットフォームです。

SMFは、埼玉県立近代美術館に事務局を置き、埼玉県内各地のミュージアムをキーステーションとし、美術、建築、音楽、文学、ダンス、パフォーマンス、地域活動など、さまざまな領域のメンバーが活動します。

SMFは、さまざまな生き方をしてきた人が集い、触発しあいながら、まだ見たことも聴いたことも経験したこともないようなモノゴトを創りだすこと、これまで見えなかったモノゴトが見えるようになること、これまでとモノゴトが違って見えるようになり、生きることが豊かになることを目指します。

このような活動を維持し発展させていくためには、多くのみなさんのあたたかいご理解、ご支援が欠かせません。寄付をしてくださる方々やともに汗をかいてくださる方々も必要です。この機会にあなたもSMFのアートの輪に加わり、多士済々の楽しい仲間たちと一緒に活動なさいませんか。メンバーの募集要項・会則等については、近日中にホームページでお知らせします。お気軽にお問い合わせください。(問合せは、SMF事務局 メール: info.SMF@artplatform.jp fax: 048-824-0118) (M.N.)

## S A I T A M A 連携美術館

## 情報

今回は、川口市立アートギャラリー・アトリアをビックアップします。

アトリアの(新鋭作家展)をご存じですか。同館がオープン当初より継続してきた、文化芸術の振興と新鋭作家の発掘・育成を目的とした公募展です。3月17日に会期を終えたばかりのこの企画について、担当の川崎さんに取材させて頂きました。

会場では、前回の優秀者として選出された青木聖吾氏と遠藤研二氏の展覧会とともに(第3回 新鋭作家展 二次審査(作品プレゼンテーション公開))が同時開催されていました。川崎さんによれば、今年の応募者は73名。北海道から九州、年齢も10代から60代と幅広く、全国に公募枠を広げて2年目の手応えを感じたそうです。新鋭=若手とは限らず、この先どんな表現をしていきたいのか、作品とともに作者の将来性を見るため、一次審査はポートフォリオをもとに行われました。出展に向けてのプランは今回インスタレーションが目立ち、優秀者の展示できる広いスペース、明るく開放的なアトリアの雰囲気にも、多くの作家が魅力を感じている様子だったそうです。一次通過者9名がスタジオ内各ブースにてプレゼンテーションを行い、うち2名が次回(第3回 新鋭作家展)の出展作家に選ばれたところ。会場のコメント用紙に寄せられたお客さんからの率直な意見も、作家たちにとって大いに励みになることでしょう。展覧会の会期は限られていても、人とアートが育つ過程は年中無休。一年後の変化に期待しつつ、未来を担うアーティストの歩みを、あなとも見届けてみませんか。(A.O.)



※(第3回 新鋭作家展)は2014年6月の予定です。



@GYODA



@KONOSU



@KITAURAWA



@KITAURAWA



@GYODA



@KONOSU



@KITAURAWA



@KITAURAWA

\*\*\*これまでに浦和、川口、川越、大宮のアートマップを作成。ホームページでご覧いただけます。